

RRS 中期目標・2024年度短期目標の検討

■ RRS 中期目標（5年先を見据えた目標）

2018年度中期目標の設定に関しては様々な提案があり、運営会議で、

- ① 事業で必要とされるもの、②社会的に必要とされるもの、③運営として必要なものに絞り、検討の結果、5年先を見据え、2018年度に設定した目標を2021年度に改定し以下のように設定した。引き続き、5年先を見据えた目標であるため、2024年度も継続したい。

2018年度に改訂し、2021年度に作成したものを2024年度も継続

- ① HIV陽性者の現在と老後を見据え、医療福祉サービス事業者への情報提供をしていく
② 検査率向上を目標に、年間5,000人に対してHIV/AIDSの情報を伝えていく
③ 「レッドリボンさっぽろ」の目指す社会を実現するために、認定NPO法人を取得する。

■ 2023年度短期目標達成の評価と2024年度の短期目標

まず、以下のように提案をした2023年度の短期目標（中期目標の①～③に対応している）の達成度を、事務局で次のように評価した。全体的に目標達成に向けて活動したことを大きく評価したい。

① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつながりを強化する。

→中期目標①につながる目標でもあり、継続的につながりを絶やさないよう、引き続き他団体とのつながりを強化していきたいと考え、この目標を設定した。

2023年度も引き続き、厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の取り組みに協力でき、(一社)にじいろほっかいどうと共催で2つのイベントを開催できた他、WAVE さっぽろにもご協力いただき北海道初となるオリジナルコンドームの制作ができた他、Qwe'reの協力の下、ゲイナイトにて啓発資材の配布もできた。また、九十九祭やさっぽろレインボープライドへの参加や各ラジオ出演、Jazz ライブでの資料配布など、他団体とのつながりがなければ実現できなかったことが多かったと考えている。これは、スタッフがこれまでのつながりを大切にし、コミュニケーションに注力した結果、そのつながりが強化され、実現できたと評価している。今後も、道内外のエイズNGOや他団体とのつながりを大切に活動の輪を広げていきたい。

② 新しい予防方法の普及につなげるため、コンビネーション予防について伝えていく。

→北海道・札幌でもPrEPを処方するクリニックができ、新しい予防方法で「PrEP」というものがあると、コミュニティの中でも浸透してきているが、「PrEP」という言葉だけが浸透するのではなく、正しい使用方法も伝えていかなければならない。また、一つの予防方法だけではなく、予防方法を複数組み合わせで行うこと（コンビネーション予防）で、HIV感染拡大の終息を早くするという研究もあり、まずは、PrEPの正しい知識だけではなく、コンドームの使用やU=U、定期的な検査などと併用するコンビネーション予防についても伝えていくため、この目標を設定した。

2023年度は、各イベントでコンビネーション予防を意識したブース作りが出来た他、「コンビネーション予防とPrEP」という講演会も開催できたことを高く評価している。

- ③ スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、参加を促していくことで、「HIV/エイズに関する知識」だけでなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
→この目標は、開設から「言葉で伝える」ということを大切にしてきたが、近年、スタッフ間での感受性を共有するような場が少なかったため、会の中で、知識的なスキルアップだけでなく、言葉の引きだしが増えるような、スキルアップの機会を大切にしたいと考え、設定した。しかしながら、2023 年度も各事業内で勉強会の実施はできていたものの、変わらないマンパワー不足により、会全体での勉強会の実施が十分にできなかったと評価している。
- ④ 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。
→これからも活動を円滑に進められ、多角的な視点から活動を展開していくためにも、活動に参加できる会員を増やしていくことが大切である。そのため、公式 LINE の使用などよりアクセスしやすい環境を整える必要があると考え、この目標を設定した。公式 LINE のアカウント作成ができたことは評価しているが、これを有効的に活用できていないため、引き続き環境整備は必要と考える。

以上のように、2023 年度の各目標の達成度を評価した。また中期目標を達成するために、2024 年度の目標を以下のように、検討した。2024 年度単年度で達成できることを念頭に置き、検討している。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな環境や時代を鑑み、活動の内容を精査していく。
→1993 年から活動している当会だが、開設当初から大切にしている活動が多い。開設から 31 年を迎え、HIV 感染症の治療は大きく進歩している。また、予防方法においても PrEP やコンビネーション予防、検査においても通常検査、即日検査の他、郵送検査という方法ができるなど、時代とともに HIV/エイズを取り巻く環境は変化している。そのため、いま令和時代に本当に必要な活動を実施できているのか、また伝える内容は時代に合っているのかなど検討し、次世代につながる活動を精査していきたい。
- ② スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけでなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
→2023 年度の評価を鑑み、2024 年度も継続目標とする。各々のスタッフの感受性やレッドリボンさっぽろとしての考え方を共通認識し、これからも同じ方向に向かって、活動していけるような体制を構築していきたい。
- ③ 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。
→これからも活動を円滑に進められ、多角的な視点から活動を展開していくためにも、活動に参加できる会員を増やしていくことが大切である。そのため、公式 LINE の使用などよりアクセスしやすい環境を整える必要があると考える。

以上の 2024 年度の短期目標 3 つを、事務局として提案したい。

【2024 年度 短期目標】

1. HIV/エイズを取り巻くさまざまな環境や時代を鑑み、活動の内容を精査していく。
2. スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけでなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
(2022 年度から改定し継続)
3. 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。
(2023 年度から継続)